

第254回 番組審議会

1. 日 時 平成28年7月12日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 10名
出席委員数 10名 (欠席委員数 0名)

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)

九萬原 敏巳 (副委員長)

—以下50音順—

石田 征広

加藤 裕一

久慈 浩介

斎藤 純

菅原 正二

八木橋 伸之

役重 真喜子

吉田 浩次

○ 会社側出席者 (8名)

藤澤 利憲 (代表取締役社長)

小原 忍 (取締役副社長)

藤原 銀司 (常務取締役)

前田 秀男 (取締役技術局長)

工藤 浩 (取締役東京支社長)

高嶋 昇 (取締役営業編成局長)

菊地 十郎 (報道制作部長)

和田 裕貴 (報道制作部)

○ 事務局 君澤 温

4. 議題 『FNSドキュメンタリー大賞

届かなかった少年のSOS ～いじめ自殺が遺したもの～ 』

平成28年 5月29日(土) 13:00～13:55

5. 議事概要

今回は、5月29日放送の「FNSドキュメンタリー大賞 届かなかった少年のSOS～ “いじめ” 自殺が遺したもの～」を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道部菊地十郎部長からの説明

・この番組は、昨年7月にJR矢幅駅で当時中学2年生の少年がいじめを苦しんで自殺したとみられる事件を追ったドキュメンタリー番組。少年の実名や顔写真はどのタイミングで出すのか、学校の先生の名前は出すのか、記者会見での顔は映すのか、声はどうするのか。中学生のインタビューはどのように使うのかなど、とても難しく迷いながらの取材となった。フジテレビや同じような事案のある系列局に相談しながら判断した。

・番組を担当したのは、記者2年目の和田裕貴。番組を自分にやらせてくださいと手を上げてくれた。経験も浅く迷うところもあったが、最近まで学校でそのようなことを見聞きしてきた立場で番組ができるのではないかと期待して任せた。和田は、少年の父親と誠実に向き合い、親身になって話を聞くことで信頼を得て、この番組ができたと思う。

●岩手めんこいテレビ報道部和田裕貴記者からの説明

・いじめは、学校や職場で誰しもが見たり聞いたりして関わってきたことがあり社会的なテーマだと感じていた。今回の件は、自殺との因果関係があったか検証が続いており、いじめを苦しんで自殺したと断定はされていないが、このようなことが「二度と繰り返されないように」という思いと、「教育現場がこのように変わればいいのか」というテーマで番組を制作した。

・この番組を良かれと思って放送したが、一部から放送をきっかけに子供たちがフラッシュバックするということを言われ葛藤もあった。一方で、「この番組は全て自分が責任を取る」という気持ちがあり、聞き苦しかったかもしれないが、ナレーションも自分で担当した。

●出席した委員からの意見

・時系列で淡々紹介していて分かりやすかった。

・少年の父親は、思いが強いからか同じことを言葉を変えて何度も話していて、それが後半になるとくどいと感じた。もう少し工夫が欲しかった。

・記者会見の校長の姿に、今の学校の教育現場が如実に表われていて、テレビというのは怖い、すごいなと思った。

・下手をすれば少年の担任の個人攻撃になってしまうかもしれない。そうではなく学校の教育の場の問題なんだよということに留めようとしたと感じた。

・いじめのことを少年が家庭で親に言えなかったというのが一番の問題。学校だけ攻めればいいという問題でもないのではないか。

・取り上げ方が、あまり腫れ物に触るようではなく、想像力にお任せしますという作りで、それは良かったと思う。

・難しい問題に正面から取り組んだことは好感が持てる。

・資料や生活記録ノートを豊富に引用して臨場感があったが、テーマが大きすぎてその後の集約、統一方針、整理が十分ではなかった。

・「法律の問題」「現場の教育論」「行政の問題」と整理して説明した方が良かった。

・やむを得ない手法だったと思うが、当事者の追い方、顔を出さないことなどにもどかしさを感じた。

・教育現場がこう変わればいいのかというテーマで、例えば日本の中学校教師には余裕がないという部分に絞って取り上げてもいいのではないかと。

・少年が亡くなって1年というタイミングで、部屋の中や写真、持ち物など少年が1人の存在として、肌触りとして画面の中で感じられたのはテレビの力であり、それが一番良かった。

・教室の空気を良くし子供たちの空気を良くするためにどういう取り組みならできるのか。そこをずっと追いかけて深く掘っていくということが、まとめられていると感じた。

・この番組を作って放送することで、あれが正しい、これが間違っている、これはダメだという議論が巻き起こることがとても大事だと思う。

・「岩手の学校がどうなっているんだ」というところに切り込んでいくためには、「違うんじゃないか」ということが出てきたら勇気を持って伝えてほしい。

・活字の受け止め方とテレビで感じる受け止め方は違って、責任について腰の引けたところ、先生同士がかばいあっていることが映像からありありと感じられ、リアルな部分を打ち出したことが良かった。

・教育現場に問題があるという視点で番組を作っていたのは良かったと思う。次は社会全体としてどうしていくのかなど第三者委員会の結果を踏まえてフォローしていけばいいのかなと思う。

・教育委員会の指導力の無さをなぜ指摘しないのか。学校の体質を良くすることが教育委員会の仕事であり、日常的な学校の問題は、常に直していかなければならない。

- ・「いじめ」という言葉ではなく、みんなが共通の認識を持てるような言葉に落として議論した方がいいのではないかと。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置
特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成28年7月13日(水) 産経新聞 東北版

※平成28年7月23日(土) 午前4時12分から4時15分まで「めんこいテレビ番審
リポート」として放送。

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項
特になし

※次回は、平成28年9月13日(火) 12時より 当会場にて開催予定です。